

一九三五年九月十九日 ジヤバンクロニクル 五頁ヨリ

中村殺人事件  
支那當局急速ナル調査ヲ約ス  
日本紙ノ論評

朝日新聞奉天電報に依ると、奉天總領事林氏は森岡領事を携へ遼寧政府首座の楊氏を訪問し、中村大尉外三名が支那軍に依つて殺害せられた事由に關して、交渉を開始した。

來電に依るところひ會見に於て日本總領事は事件の事實を説明し、その後で彼は楊氏に急速なる手段を探る様要請した。

氏はこの問題に關して何等報告をうけて居らぬと言ひ、そして事件が領事が述べた様なものであるならば彼も遺憾に思ふ旨返答した。彼はその時調査せしむる爲に委員を派遣すること及軍當局にすべての調査を一週間以内に完了する様命ずることを約した。電信に依れば、事件の重大性に鑑み、支那の調査の結果を支那のさるべき態度とは、そ

Def Doc No. 448

の地方で非常な興味を以て注目されて居る。

この事件を論評して、大阪朝日は憤慨を表明し日本の奉天總領事林氏に、その事件が日本に満足し得る様に解決されるために事件を勇敢に支那の地方官憲の所へ持つて行く様促して居る。調査旅行途中超満洲内部にあつた中村震太郎大尉は六月末以來行方不明であつたが調査の結果、既に軍當局に依つて公表せられたる如く、彼の驚く可き最期が明らかになつた。調査旅行中大尉は、支那軍に捕られ射撃された。

彼は實際に旅行免狀を持ち、一見して彼の國籍は分つた。彼を殺害した者が、地方の平和の維持及住民の危害防禦に任すべき支那軍であつたといふ事實に依つて、この犯罪の重要性は更に大きくなつた。

これらの事實を目前にしては、支那當局が責任を回避し得ないことは明らかである。この日本將校殺害の方は、非常に慘酷なものであつた。彼を色々と侮辱した後、彼等は彼を殺して、死體を焼却した。

朝日新聞は更に、支那當局が如何なる辯明をなさうとも、日支兩國間

Loc Doc No. 443

に存在する條約の下に於ては、支那がこの事件でかやうに無軌道なことをしたことを正當とする様な根據は存在しないのである。特に悲しむべきことは、時恰も治癒法權撤廢の交渉が重大段階に入らんとする時に支那人がかゝる恐るべき犯罪を犯したことである。この事件はソーパー寧洋よりも更に重大である。大阪毎日新聞は日本國民の名に於いて支那人の日本軍人に對する非暴を責めなければならぬと主張してゐる。